

授業科目(ナンバリング)	福祉行財政と福祉計画論 (DB402)			担当教員	星野 秀治		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>国と自治体との関係や、財政の仕組みといった福祉行財政の実施体制と福祉計画について理解し、専門的な実践の基礎を形成することを目的とする。</p> <p>社会福祉基礎構造改革以降、日本における社会福祉サービスや支援は、市町村をベースとし、行政・住民・事業者が参加して立案計画に基づいて実施することが求められるようになった。これにともない福祉専門職は、現場実践における専門性ととも、計画策定における専門性が求められるようになってきている。本授業では、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について理解し、「人間尊重」の理念をふまえて、専門職としてどのように関わることができるのかについて考え、実践できるようにする。</p>							②⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉行財政の歴史、現状、課題について説明することが出来る。</li> <li>福祉計画の目的と内容を説明することが出来る。</li> </ul>				定期試験	30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>国と地方公共団体の役割の違いについて理解し、分析できる。</li> <li>昨今の社会情勢の動向をふまえて、今後の福祉行財政の方向性を考えることが出来る。</li> </ul>				定期試験 レスポンスシート	10% 30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内におけるディスカッションや教員からの問いかけに積極的に参加することが出来る。</li> </ul>				授業への参加度	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な領域の福祉計画について理解し、説明することが出来る。</li> </ul>				定期試験	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験(60%)と、レスポンスシート(30%)、授業への参加度(10%)によって評価する。</p> <p>定期試験は、筆記試験とし、専門職に必要とされる基礎知識や概念を理解できたかを評価する。</p> <p>定期試験は、筆記試験とする。定期試験と別に適時ミニテストを実施するが、成績評価には反映しない。</p> <p>レスポンスシートに対しては、次回授業の冒頭に、口頭でフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである「福祉行財政と福祉計画」について、講義、事例検討、ディスカッションを通じて理解を深め、福祉専門職として福祉計画の策定にあたるための基礎的な理解をできるようにする。在宅福祉サービス事業部の管理職の勤務経験を持つ教員が、実務経験を踏まえた授業を展開する。授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画[第5版]』、中央法規、2017</p> <p>参考書：曾我謙悟著『日本の地方政府-1700自治体の実態と課題』、中公新書、2019</p> <p>指定図書：参考書と同じ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>具体的な手続きや体制について、分野横断的にまとめた科目である。おさえるべき領域が広く、具体的な知識が問われるため煩雑になりやすいが、文章ではなく、図表で整理することで頭に入りやすくなる。その際に、なぜ、分野や制度によって違いがあるのかについての理由を理解することが大切になる。予習においては、当日の該当箇所のおおまかな項目の流れを把握し、復習においては知識の定着に務めることが望まれる。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	当該授業の目的、進め方、評価方法について説明。社会福祉の概念について理解する。	予習：第1章第1節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること
2	福祉法制度の展開	第二次大戦後の我が国における社会福祉の法制度の発展過程について理解する。	予習：第1章第2節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
3	福祉計画の概要	福祉計画が実施されるようになった背景やその考え方について福祉行財政との関連で理解する。	予習：第1章第3節・第5章を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
4	福祉行政と法制度	福祉援助実践の場が、どのような法制度や福祉行政によって規定されているのか、活用できる社会資源は何か理解する。	予習：第2章第1節～第2節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
5	福祉行政の組織と機関	福祉行政における国、および地方公共団体の役割と組織について理解する	予習：第2章第3節・第4章第1節～4節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
6	福祉行政の組織と専門職	地方公共団体が運営主体の相談所等の相談援助職について理解する。	予習：第4章第5節～第6節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
7	社会福祉基礎構造改革	社会福祉関係法の体系と社会福祉基礎構造及び構造改革について理解する。	予習：第2章第4節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
8	国と地方の福祉財政	一般会計予算と社会保障関係費及び、地方自治体の財政と民生費の動向を理解する。	予習：第3章第4節～第5節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
9	民間社会福祉事業の財源と税金	年金や諸手当などの社会保障や民間社会福祉事業の財源および税金について理解する。	予習：第4章第1節～第4節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
10	福祉計画の理論と技法	福祉計画の概念や類型、計画の過程モデルとその特徴、ニーズ把握の技法について理解する。	予習：第6章を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
11	福祉計画の実際①	老人福祉計画と介護保険事業計画を理解する	予習：第7章第1、2節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
12	福祉計画の実際②	障害者計画・障害者福祉計画・障害児福祉計画	予習：第7章第3節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
13	福祉計画の実際③	次世代育成支援行動計画、子ども・子育て支援計画を理解する	予習：第7章第4節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
14	福祉計画の実際④	地域福祉計画を理解する	予習：第7章第5節を読む。復習：授業で示した資料を確認すること。
15	まとめ	定期試験に向けて、今までの授業内容を振り返り、ポイントを理解する。	予習・前回までの資料やレジュメを読み、確認する。復習・授業内容のポイントを確認する。
16	定期試験		